

## Ⅱ期（学内・一般）

受験番号		フリガナ	
		氏名	

平成30年度 春入学  
武蔵野大学大学院 言語文化研究科 言語文化専攻 ビジネス日本語コース  
入学試験問題

1月21日 実施  
<100点・90分>

### [ 小論文および日本語 ]

#### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で8ページ(余白含む)あります。問題Ⅰ～Ⅲの全ての問いに答えてください。
- 3 試験時間は90分です。途中退室はできません。
- 4 試験中に、問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明や汚れなどに気がついた場合は、速やかに手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答には、鉛筆、シャープペンシル、黒または青のボールペン、万年筆を使用してください。
- 6 修正をする場合には、解答用紙を汚さないよう、消しゴム等できれいに修正してください。
- 7 解答は全て解答用紙(B4用紙3枚)に記入してください。
- 8 この問題冊子と解答用紙の両方に、受験番号、氏名(フリガナも)を丁寧に書いてください。
- 9 問題冊子の余白等は、メモなどに使用してもかまいません。
- 10 試験終了後、解答用紙(答案)のみ回収します。この問題冊子は持ち帰ってください。

**問題Ⅰ 次の質問に対するあなたの考えを自由に論じなさい。**

(改行等含め 800 字以内)

日本企業の多くは年功序列による給与体系が特徴だと言われていました。しかし近年では、年齢や会社での在籍年数にかかわらず、能力給や成果報酬の導入も進んでいます。年功序列式の給与体系と、能力や成果に応じた給与体系では、それぞれどのような特徴があるでしょうか。具体的な事例を挙げて、両者を比較しながら、それぞれの利点と課題を論じてください。

**問題Ⅱ 次の状況のとき、どのような表現で何を伝えたらよいかを考えて、実際の電話での対話を想定して書きなさい。**

なお、相手の担当者の発話は「田中：」、あなたの発話は「私：」と表記しなさい。

(字数指定なし。ただし解答欄内に収まるように。)

あなたは日本企業の有明商事に勤務しています。

取引先の武蔵野商会に、イベント用のうちわを 4000 個とタオルを 2000 枚発注しました。ところが、納品されたものをみると、うちわが 2000 個でタオルが 4000 枚になっています。そこで、武蔵野商会の担当者の田中さんに電話をし、苦情を丁寧に伝えた上で、来週中に当初の発注通りに納品してもらえるようお願いをしてください。

**問題Ⅲ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。解答はすべて解答用紙に書きなさい。**

「技術が経済制度を決める」という観点からすると、1990年以降の世界で生じた技術の大変化は、決定的な重要性を持つと考えざるをえない。とくに重要なのは、情報処理と通信の技術が、集中型から分散型に移行したことだ。コンピュータで言えばメインフレーム（大型汎用計算機）からPC（パソコン）への移行であり、通信で言えば電話や専用回線からインターネットへの移行だ。これは、一般に「IT革命」と呼ばれる。この変化は、経済構造の根幹に本質的な影響を与えた。

情報処理システムが集中型だった時代には、経済システムでも中央集権型が有利だった。ソ連式計画・指令経済が50年代、60年代を通じて優れたパフォーマンスを示したのは、偶然ではない。宇宙開発のように国家総力の傾注が要求される分野では、集権型経済の強さが[ A ] 発揮された。

日本の戦時経済体制も、中央集権的な色彩が強いので、古いタイプの情報システムに適合していた。①アメリカにおいてさえ、70年代までは、組織の巨大化・集権化が進展し、政治面では連邦政府の比重が増大したのである。

この時代の中心産業は、製造業、なかんずく、鉄鋼業のような[ B ]型装置産業と、自動車のような大量生産の組み立て産業であった。これは、産業革命によって始まった経済活動（機械を用いる製造業）が行き着いた究極点である。

90年代以降の情報技術の変化は、このパラダイムを根本から変革しようとしている。これは、

②産業革命以来の大変化なのである。

分散型情報システムが進歩すると、分権型経済システムの優位性が高まる。したがって、計画経済に対して市場経済の有利性が増し、大組織に対して小組織の優位性が高まる。

経済活動の内容でも、産業革命型のモノ作りではなく、金融業や情報処理産業の重要性が増す（この場合の金融業務の中心は、これまでの日本の金融機関が行ってきたような定型的業務ではなく、投資銀行的なものである）。

こうした経済活動においては、③ルーチンワークを効率的にこなすことではなく、独創性が求められる。したがって、集団主義ではなく個性が重要になる。政治的にも、地方分権が望まれる。

<中略>

日本の戦時経済体制も、分散型情報システムの下では優位性を失う。90年代以降の日本経済の不調は、バブル崩壊後の後遺症というよりは、新しい経済環境への不適合から生じたものである。

アメリカの社会経済構造はもともと分権的な性格が強かったので、新しい技術体系に容易に適合することができた。その具体的な形が、90年代にシリコンバレーで起こったIT革命だ。

それは、シリコンバレーを変えただけでなく、アメリカ経済の全体を変えた。さらには、アイルランドをはじめとするヨーロッパ諸国やインドなどを変えた。つまり、21世紀の経済を変えたのである。

新しい技術体系が、なぜ日本で広がらないのだろう。それには二つの原因がある。

その第1は、言葉の壁である。新しい通信手段が世界をカバーしても、英語ができなければそのネットワークには入れない。製造業の製品を輸出するのに言葉は無関係だが、企業のコールセンターをインドに移せるのは、英語国だけである。日本は、新しい技術体系においては、④決定的なハンディキャップを負っていることになる。

第2の原因は、日本の経済構造と人々の基本的な考え方にある。これらが新しい技術レジーム<sup>注1</sup>には不適合なのである。

例えば、「グーグルの急成長は検索サービスによるものだから、国家プロジェクトで日本独自の検索技術を開発しよう」という考えが日本で提唱されている。あるいは、イギリスが金融業によって発展したのを見て、「東京を国際的な金融センターに育成しよう」とする意見もある。

しかし、「国が主導して新しい時代を切り開く」という発想自体が、新しい時代にそぐわないのだ。グーグルは、スタンフォード大学の大学院生が趣味で行なっていたことである。イギリスの金融業の発展は、規制緩和によってもたらされた。右のような提案をする人は、60年代型国家プロジェクトの考えを、いまだ引きずっているのである（ちなみに、分権的社会においては、宇宙開発のような大規模プロジェクトに資源を集中するのは困難だ。宇宙開発がいまにいたるまで停滞しているのは、当然である）。

新しい産業を育成しようというので、金融機関や地方自治体がベンチャーキャピタルを作ったのも、滑稽としかいいようがない。そもそも「ベンチャー企業を育成する」という発想自体が矛盾だ（ベンチャーとは、個人や小組織の創意による、チャンスとリスクへの挑戦だからである）。

日本では、ITも新しい金融業も、バブルにしかならなかった。ライブドアと村上ファンドがその具体例だ。新興市場の<sup>さんたん</sup>惨憺たる有様は、日本にはまともなベンチャー企業がほとんどないことを示している。

かくして、日本においては、技術と制度・思想が深刻な対立を起こしている。新しい技術の基本的な性格が変わることはないから、制度と思想がどこかで変わるしかない。

そのきっかけは、何だろう。数年前、日本経済が不況にあえいでいたとき、現在のシステムを何とか変えねばならないという意識が一般化した。伝統的大企業から有能な人材が脱出して新しい事業を模索し始めた。しかし、ここ数年、世界的な資源・資材の高騰を背景として、鉄鋼業などが息を吹き返してしまった。メガバンクも、いまや学生の就職ランキングの最上位に復活している。すべては、20年前に逆戻りしてしまっただけに見える。そして、この状態は、当面変わりそうもない。

もっとも、あきらめるにはまだ早いかもしれない。日本の産業革命はイギリスより100年以上遅れたが、追いついた。新しい情報技術がアメリカで誕生したのは1990年代のことだから、それほど昔のことではない。日本が遅れたのは事実だが、これからキャッチアップするのは不可能ではあるまい。

しかし、その過程において、古い制度や思想との摩擦は、さらに大きくなるだろう。われわれは、長い混迷の時代を覚悟しなければなるまい。

（野口悠紀雄『戦後日本経済史』）による

注1：レジームとは、体制や制度などのこと。

問1 [ A ]に入ることばとして、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 いかんなく
- 2 いかんでは
- 3 ごとき
- 4 ごとく

問2 本文中の[ B ]に入ることばとして、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 高付加価値
- 2 重工伝統
- 3 重厚長大
- 4 高収益

問3 本文中の下線部①「アメリカにおいてさえ」とあるが、なぜそのような言い方になるのか、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 アメリカは、元々組織の巨大化・集権化を進めていたから
- 2 アメリカは、分散型の経済体制にいち早く適応したから
- 3 アメリカは、ソ連に対抗して計画経済を行っていたから
- 4 アメリカは、国家型プロジェクトを経済政策の中心にしていたから

問4 本文中の下線部②「産業革命以来の大変化」とは具体的にどういうことか、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 機械を用いる製造業が発展すること
- 2 組織の巨大化・集権化が進んだこと
- 3 自動車産業が大きく発展したこと
- 4 金融業や情報処理産業の優位性が増したこと

問5 本文中の下線部③「ルーチンワークを効率的にこなすことではなく、独創性が求められる」とはどういう意味か、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 いつもの同じ仕事を素早く行うより、クリエイティビティが求められる
- 2 組織の重要な仕事を的確に行うより、個人のオリジナリティが求められる
- 3 初めての仕事をテキパキと進めるより、クリティカルな視点で考えることが求められる
- 4 単純な繰り返しの仕事をうまくやるより、組織ガバナンスの意識が求められる

問6 本文中の下線部④「決定的なハンディキャップ」とは何か、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 英語国のようにインドを植民地にできなかったこと
- 2 企業のコールセンターを海外に置くこと
- 3 日本語を使いながらビジネスを進めていること
- 4 国内の通信手段が新しい技術に追いついていないこと

問7 この文章は何について説明しているのか、最も適当なものを1～4よりひとつ選びなさい。

- 1 情報システムの変化が経済システムにも反映されている状況について
- 2 日本が新しい時代の経済的潮流に乗り遅れている理由について
- 3 情報化や小規模化が進む世界のビジネスの現状と課題について
- 4 産業革命とIT革命がそれぞれ日本にもたらした影響について

問8 本文で述べられていることを、なるべく文中のことばを使って 300字程度で要約しなさい。

**【以下余白】**

※ メモに使用してもかまいません。





